現場に役立つ日本語教育研究 3

わかりやすく書ける作文シラバス

シリーズ監修 山内博之　編者 石黒圭

Kurosio
くろしお出版

現場に役立つ日本語教育研究 3

わかりやすく書ける作文シラバス

シリーズ監修 山内博之　編者 石黒圭

kurosio
くろしお出版

CONTENTS

現場に役立つ日本語教育研究３　目次

まえがき　石黒圭　iii

第一部　正確で自然な日本語で書く

第1章 正確で自然な立場の選び方（庵　功雄・張　志剛）……3
第2章 正確で自然な時間の示し方（庵　功雄・宮部真由美）……19
第3章 正確で自然な判断の表し方（永谷直子）……37
第4章 正確で自然な複文の組み立て方（庵　功雄・宮部真由美）……57
第5章 正確で自然な句読点の打ち方（岩崎拓也）……75

第二部　流れがスムーズな日本語で書く

第6章 流れがスムーズになる指示詞の選び方（金井勇人）……99
第7章 流れがスムーズになる情報構造の作り方（劉　洋）……119
第8章 流れがスムーズになる接続詞の使い方（俵山雄司）……141
第9章 流れがスムーズになる序列構造の示し方（黄　明俠）……159
第10章 流れがスムーズになる視点の選び方（末繁美和）……179

第三部　説得力のある日本語で書く

第11章 説得力のある段落構成の組み立て方（宮澤太聡）……199
第12章 説得力のある全体構造の作り方（石黒　圭）……225
第13章 説得力のある例・根拠・たとえの示し方（新城直樹）……245

あとがき　山内博之　261
執筆者紹介　269

まえがき

石黒　圭

本書を手に取られた方は、現在作文指導を担当され、苦労されている方、これから作文指導を担当することになり、途方に暮れている方が多いのではないだろうか。本書は、そうした方々を対象に、作文指導の方法について明確な指針をお示しすることを目指す論文集である。

「私は日本語教育に携わっています」ということを友人に話せる人は多くても、「私は作文指導に携わっています」ということは友人に隠しておきたい人が多いのが現状であろう。「あなた、そんなに文章上手だったっけ」や、「作文の先生なら、あなたの書いた文章を一度見てみたいわ」などといった恐ろしい言葉を引き出しかねないからである。

文章を書くということについては、私たちはみな、スネに傷を持つ身である。学習者だけでなく、指導する教師も、作文を書くことに不安を抱えている。しかし、教師が作文指導に不安を抱えていると、よい教育はできない。学習者の作文不安を解消するには、まずは教師が自分自身の作文不安を解消する必要がある。

教師の作文不安を解消するために、本書では三つの考え方を紹介する。

一つ目の考え方は、学習者の作文の全般的な傾向を知るということである。作文指導を担当する教師は、添削という作業をとおして学習者の作文の実態を把握する。もちろん、それは重要なことであるが、添削はつねに場当

たり的な作業であるため、まとまった作文を一定の観点から総合的に分析するという別の作業が欠かせない。添削は質的な作業なので、学習者の量的な傾向を知るのには不向きである。

そこで、本書では、日本語母語話者、中国人日本語学習者、韓国人日本語学習者がそれぞれ書いた計180本の作文を対象にする。コーパス言語学が発達している現在、大量というほどではないが、それでも、学習者の作文の傾向を知るためには参考になる分量の作文群であろう。これを、13名の執筆者がそれぞれ専門とする観点から丁寧に学習者の傾向を分析していく。それによって、学習者の作文の全体的な傾向が鳥瞰できると同時に、日々の添削作業で見落としてきた新たな観点に気づくことが期待できる。

教師の作文不安を解消する二つ目の考え方は、指導のためのシラバスを考えるということである。これまでの作文指導は比較的短い文章のなかで行われることが多く、研究の対象となる学習者の作文コーパスも400字や600字など、短い作文が多かったのが現状であった。今回、本書の執筆のために構築されたJCK作文コーパス（http://nihongosakubun.sakura.ne.jp/corpus/）は、JLPTのN1相当以上の力を持つ学習者を対象に、2,000字以上の分量で書いてもらったものである。また、ジャンルも説明文、意見文、歴史文（正確には時間の流れを意識した時系列文）という三つのジャンルを設けた。こうしたジャンル横断的な長い作文のコーパスを参考にすることで、上級レベルに必要な文章構造の意識やレジスターへの配慮が視野に入るようになり、初級、中級、上級という学習者の成長過程を縦断するシラバスの作成が可能になった。

私たち教師は、どうしても学習者の「今」とだけ向きあってしまいがちである。それも必要なことであるが、成長過程に沿ったシラバスを私たち教師が心の物差しとして持っていれば、学習者の「今」を相対化し、学習者の将来の長い成長過程を意識しながら、ポイントを絞って集中的に指導することが可能になる。作文シラバスという名の物差しが教師の手に入れば、未来につながる成長過程のなかで、現段階で学習者に指導すべきことが自ずと決まってくるだろう。

教師の作文不安を解消する三つ目の考え方は、指導の項目を整理すること

である。不慣れな作文教師の場合、学習者の作文教育の最終目標を自然な日本語で書けることに置いてしまいがちである。もちろん、それは一つの見識であり、間違っているわけではないが、狭すぎるように思われる。

本書は、そのタイトル『わかりやすく書ける作文シラバス』が示しているように、読み手に優しい文章が書けるようになることを最終目標に置いている。自然な日本語で書けることは、学習者のみの目標であるが、読み手に優しい文章が書けることは、学習者と母語話者、共通の目標である。自然な日本語で書けることを目指すと、学習者の到達目標は母語話者になるが、実際には学習者のなかでも高い運用能力を持つ者はかなり多く、アカデミックな世界やビジネスの世界など、日本社会のなかで母語話者と伍してやっていく力を持つことを目指している学習者も少なくない。そうした志の高い学習者のさらなる成長を促し、学習者と母語話者に共通の目標を設定することで、日本語教育の作文教育の水準を引き上げたい。私たちはそんな思いで、本書を執筆した。

そのために、本書では「読み手に優しい文章」の条件を三つ設定した。

①正確で自然な日本語

②流れがスムーズな日本語

③説得力のある日本語

①正確で自然な日本語は、誤解や違和感を与えない日本語で、おもに文法面のルールを考える。②流れがスムーズな日本語は、文連続や文章構成が明快な日本語で、おもにテキスト面の結束性を考える。そして、③説得力のある日本語は、情報の示し方が首尾一貫している日本語で、おもに内容面の一貫性を考える。

この三つの条件を満たす「読み手に優しい文章」を、作文コーパスを生かした日本語学的な分析で明らかにし、それをシラバスとして提示する。こうしてできた物差しが、作文教師のみなさまの指導のよりどころとなることを、執筆者一同、心から願っている。

2017年11月　執筆者を代表して

石黒　圭